

# 物性研を退任して

柴山 充弘

2020年3月に物性研を退任してはや半年が過ぎ、現在、私は茨城県東海村の一般財団法人総合科学研究機構(名称が覚えにくいこともあり英語名の略称である CROSS と呼ばれることが多い)というところに勤めています。住まいも柏の葉の宿舎から東海村に変わり、今ではすっかり東海村民になりきっています。私は物性研に2000年9月に着任しましたので、19年7ヶ月物性研にお世話になったこととなります。慣例では3月中に退職記念講演会があり、その後のお別れ会などご挨拶することになっていましたが、今年は新型コロナウイルス感染症が蔓延しつつあったため、こうした公式行事は全て取りやめになってしまいました。そのため、皆様へのご挨拶もできず、柏を去ってしまいました。この紙面をお借りし、退任のご挨拶とともに失礼をお詫びいたします。

さて、2000年といえば、丁度、物性研が六本木から柏キャンパスに引っ越しをしてきた年でした。私の人事が決まった4月の第一木曜日の臨時所員会の、ちょうどその日、春休みを利用して京都から家族とともに物性研柏と東海の中性子散乱研究施設を訪問しました。何もない原っぱのようなところにそそり立つ真新しい物性研の偉容は今でも鮮明に覚えています。本館の5階にはすでに私のオフィスも用意されていたのに感銘を受けました。しかし、9月の物性研着任後、すぐに東海の中性子科学研究施設での業務が待っていたので、物性研の所員になった実感も味わう暇もない毎日が始まりました。週日・週末を問わず中性子散乱実験の共同利用業務に明け暮れる日が続き、柏の所員室を使うのは所員会などの会議で柏出張したとき程度でした。2001年1月号第40巻第5号の物性研だよりの「物性研に着任して」の中で当時の苦労話を、「ソフトマター屋としての孤立性、東海と柏の勤務地二重性、研究と装置管理と教育という3軸上での最適化問題など、いまだに山積する問題を抱える毎日です。」というぼやきで述懐しています。このままだと私の研究者人生は共同利用のお世話だけで終わってしまう、と落ち込んだ日もしばしばでした。

この我が人生の最大の危機(?)は古巣の京都に残してきた2人の博士課程の学生さんを柏に迎え、一緒に研究室の整備と研究の立ち上げをしたことで解決されました。幸いなことに、2001年度には東大での修士学生第一号も研究室に迎えることができました。その後は東海での共同利用推進と柏での研究が車の両輪のごとく動き始め、さらには東海と柏でのソフトマター研究に相乗効果も生まれてきました。毎年、学生の配属もあり、修士から博士課程まで広い研究者層が形成され、研究に幅も奥行きも出てきました。こうして、着任後、2~3年で物性研での研究スタイルを確立することができました。

2009年4月、吉澤先生のあとをうけて中性子科学研究施設長として施設運営を担うことになりました。何事もないければ施設運営も研究も順風満帆のはずでしたが、2011年3月の東日本大震災により、東海村にある日本原子力研究開発機構のホームグラウンドである研究用原子炉 JRR-3 が被災し運転ができなくなりました。東海村も大きな被害を受け、2週間ほどライフラインも止まりました。東海村在住の中性子科学研究施設スタッフの援助要請をうけ、同僚と二人で500Lの飲料水と沢山の食料を物性研公用車に積んで施設に運んだことも遠い昔のようです。震災直後は、JRR-3は半年ほどで復旧するだろうと見込まれていましたが、現場の復旧は終わっても原子力規制関連法令の改正や再稼働の審査、さらには関連施設の補強工事のため、度重なる再稼働予定の延期の末、ついに2021年2月末となってしまい、私の在任中の JRR-3 の再稼働は見果てぬ夢となりました。

JRR-3が稼働しなかった2011年からの9年間は、国や JAEA に対して一日も早い再稼働実現の要望をしたり、海外の中性子施設へ研究者を派遣したりすることで施設長としての役目を果たすとともに、ソフトマター研究を推進しました。新領域創成科学研究科物質系専攻と理学系研究科化学専攻の2つの専攻に協力講座として参加していたこともあり、2001年から毎年欠かさず修士の学生さんを迎えることができました。4人のポスドク、39人の修士課程学

生(うち 15 人が博士課程進学)と一緒に充実した研究生生活を送ることができました。

着任当初、大きな課題であった「ソフトマター屋としての孤立性、東海と柏の勤務地二重性、研究と装置管理と教育という 3 軸上での最適化問題」はそれぞれ、サイエンスの普遍性を再認識すること、今はやりのデジタルトランスフォーメーション(DX)を先取りしたこと、人のネットワークの活用などにより解決し、大きな成果に結実させることができました。研究や教育もさることながら、親しくしていただいた諸先生方、優秀で親切で献身的な事務職員の方々、日頃から苦楽をともにした中性子科学研究施設のスタッフのご協力、ご支援、励ましのおかげで、無事、職務を全うすることができました。イベント関係でも、2003 年と 2014 年に主催した国際ゲルシンポジウム、2013 年の中性子科学会年会、恒例行事の一般公開、ビアパーティ、音楽の夕べ、一般講演会、毎週末楽しんだテニス、お茶同好会などなど、私にとっての物性研の約 20 年は大変充実した期間でした。

3 月にできなかつた退職記念講演会を 2020 年 11 月 2 日にやっていただけることになりました。聴衆に向かつての講演に加え、3 密を避けるため ZOOM も使うというハイブリッド講演会とのこと。直接、多くの皆さんに話しかけることができないのは残念ですが、世界中どこからでも講演を聴いていただけるので、国内外の諸先生や友人、家族や親戚にも楽しんでいただける講演にしたいと、今から準備に余念がありません。物性研よりは 10 月に発刊されるとの事なので、この記事を読んでから私の退職講演を聴いてくださる方も多いと期待しています。最終講義「ポリマーネットワーク・ヒューマンネットワーク」の中で「ヒューマンネットワーク」を活かした研究人生を振り返ります。紙面の関係上、この記事に書けなかつたことの数々を講演でご紹介したいと思います。

冒頭にも述べましたが、現在、私は CROSS 中性子科学センターにて、J-PARC MLF で中性子散乱実験を行う人たちの実験支援や課題審査などの仕事に従事しています。中性子利用者から中性子研究支援者へと立場は変わりましたが、今年の年賀状にも書いた、Olds Be Ambitious! をモットーとし、東海村という新天地にて新たな人生を歩んでいきます。物性研では長い間、本当にお世話になりました。そして、今後ともどうかよろしくお願ひします。